

施設と子ども

〈静岡市〉

—桜花幼稚園—

林 叔 子

◎施設という環境に幼児はどのような影響をうけるだろうか

幼児は非常に感受性が強く刺激を受けやすい。何となれば、幼児は被暗示性、被影響性に富んでいるから環境に引かれていくが、これは幼児の動作、遊戯に大いに関係する。

一例をあげるならば、園舎のつくり方、保育室のいろいろの物の配置など、幼児をとりまく周囲の様子、学校向きであるか、幼稚園向きであるかによって、幼児が住みよいか住みにくいかということになる。保育室は幼児の部屋である。住みよい部屋でありたいと思う。壁の色ももちろん大切であるけれども、保育室のすべての配置も、幼児を中心として考えてすることが望ましい。保育室の空気が乾燥しているような、また何となく温かみの少ない感じがするようでは、幼児は動きたくても、動かなくなると。静かにしたくても、静かにならないから、さわぐようになる。幼児は人

形ではない。心もからだもいきいきと動いているので、保育室の環境のよしあしによって、直接間接に周囲よりの影響関係における生活反応関係が及ぼされてくる。要するに周囲の配慮が必要であるということになる。

ものいわぬ声なき環境に、知らず知らずの間に引きつけられ、楽しくもなれば、いやにもなる。環境とはその中に生活するものに、あるはからいをするものであるから、保育室という環境が幼児に適切であるならば、心身の発達は疲労しないで助長されていくと思う。このように施設や設備という環境に幼児は左右されるので、この環境は幼児の発達助長の上にかくべからざる条件といえよう。

◎理想的な施設・設備とは

理想的な施設、望ましい設備といっても、広大な近代的なりっぱな建築も、すばらしい設備もあるであろうし、また規模は小さいけれども、幼児を中心とした点におい

て、理想的な望ましい施設も設備もあると思う。私は今回は後者について述べてみる。私は幼児を対象として考えるとき、幼稚園は幼児のための環境をつくることにあると思うと、幼稚園的環境は幼稚園の設備ということになり、恵まれた環境の中に生活させることが大切で、室内も戸外も幼児を中心として考え教師の工夫あっせんによって、遊びの場できいききした幼児の経験が行われるようにしたい。環境は工夫によってつくられまたかえられる。保育者は、環境の計画者であり、また環境の活用者で環境をつくるのはわれわれの任務である。したがって幼児が楽しい経験生活が行われるようにするためには、幼児ということを念頭に置いて、どういう設備をどこに備えたらどんなよい生活がなされるか、よい環境つくりへの水が、こんこんと流れているようにしたい。広い園庭もほしい。池も丘もほしい。しかし、そう望み通りにはならないから、室内にも戸外にも、できる限り

のよい設備・環境を整えて、遊びたくなる生活環境が生まれて来るように、工夫にとめることである。設備、設備とうたいたい、環境、環境と呼ばれても、さてほんとうによい環境がつけられているような設備ができていであろうか。つまり、

1. 幼児が生活しやすいように設備の工夫をする。

2. 教師も幼児とともに生活するのに都合のよいように設備の工夫をする。

3. よい生活態度が身につくように設備の工夫をする。

ことが望ましいのである。

たとえば手を洗うのに洗いやすいように手洗場の設備をしておけば、自然に手を洗うよい習慣が身について来る。

結局、裝飾的なまたは形式的な設備より幼児の楽しい経験が行われて保育効果があるような、実質的な設備をすることが望ましく思われる。

も一つ極めて大切なことで案外取り入れ

ていないことは、放送ならびに視聴覚教育に關することであろう。目と耳の教育はこの時期にこそ養われたいことで、小学校へいってからはおそいのである。私はこの点に意を注いで左の設備のもとに基本的のことをしている。紙面に限りがあるので、保育室内の設備と音楽リズムの設備は省略し、遊園の設備と放送と視聴覚教育の設備を掲げておく。

1 遊園の設備

イ、給水、手洗い、足洗い兼池代用
ロ、運動機具および遊具

○砂場と砂場遊具いろいろ

○鉄製グロブジャングル

○鉄製すべり台

○鉄製太鼓橋

○鉄製ぶらんこ

○舟型シーソー 二台

○木製箱ぶらんこ

○空中シーソー

○鉄製キャップスルジム

○攀登棒・助木併用機具

○鉄棒 高低をつけて 三

○平均台

○ロッカー

○箱車

○バスケットボール遊具 二

○押車

○玉入れ 一組

○輪あそびの輪 (天中小たくさん)

2 放送と視聴覚教育の設備

○暗幕Ⅱ四○坪の遊戯室を暗室にできる

○映写のための大スクリーン

○テープレコーダー

○大型電蓄

○幻灯機とスライド たくさん

○拡声機 (遊戯室および各保育室にもそなえてある)

○暗幕なしで映写できるスクリーン

○エルモ16ミリトーカー映写機

○人形劇舞台と人形劇材料

○一五〇ホルトのトランス

○紙芝居舞台と紙芝居 たくさん

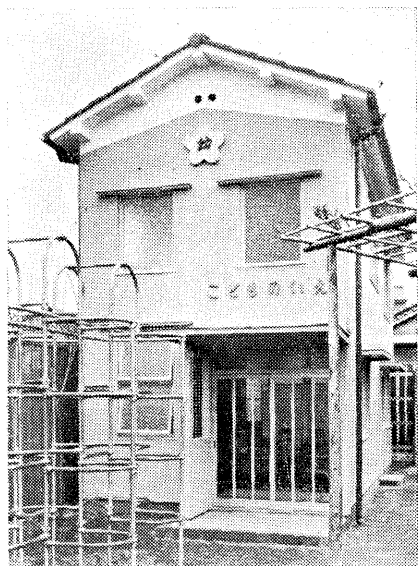
○各保育室に配電装置

なお、きわめて小さやかではあるが、本年一月「こどものいえ」を新設して幼児の世界にそなえたので、それがどんなものであるかを、次に述べてみる。

◎「こどものいえ」

一、特色 1. 構造Ⅱ 普通の平屋建を二階建とし、寸法はすべて幼児の身長、坐高から割出してある。

2. 色彩その他お伽の国を夢見



て表現してある。

3. 配電も水道もひいてある。

(スイッチとさし込みもついている。調理場も流し)

4. 自分の家である思い、自由のうちにも責任をもつてする

1. 下は洋間とままことのへや

Ⅱ約五坪

2. 二階は日本間と縁がわ付

Ⅱ約二坪半

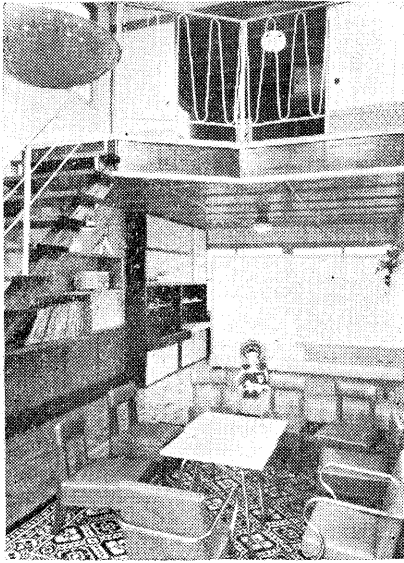
○このいえが出現したわけ

「こんな家ができたなら」そして「こんなにして暮したなら」と私の描いていた夢は随分長いことであった。考えていても、いろいろの事情のために、なかなか実現がむずかしかった。ところが、機熟したというのであろうか、昨秋十一月実現の幸運が授けられた。日頃本園の母姉会の方々と、このような夢物語りをしていたのであったが、子どもたちの福祉のために、毎月積立てて

いる、母姉会の積立金を私の夢の実現の資金に宛てるよう要請されたので、私は感謝に燃えて、一刻も早く建設して、園児たちが楽しく喜んで生活する姿を見たいと、心踊り、それからというものは、もう出来上って、幼児たちが楽しんで生活する生活振りを夢見るようになり、本年一月末までそれこそ一生懸命であった。

○「こどものいえ」の設備の概況と生活振り

誰が名づけ親ともなく、みんなの口から



「こどものいえ」と名づけられた。洋間には模様入りのジュートランの上に桃色のソファとテーブルと赤とコバルト色のビニールのクッションがついている美しいかわいらしい椅子のベビーセットが置いてある。つまり、洋風と日本風の生活の両面をとり入れたのである。階段よりの壁には、図書棚をつけ、そこには幼児向きの絵本を八十冊以上備えてあるので、ソファや椅子に腰をかけてさも楽しそうな読書風景が展開され、愛らしさで、さながら子どもの天国である。また図書棚の一隅には、ラジオが置いてあるが、これも子どもたちが自由にかけたのしんでいる。

ままごとのへやは天井の色を権色がかった赤にしてあるが、見るからにお伽の国の家の感じがする。調理場も流しも繁昌する。フキン掛けもついている。戸棚の戸も、洋間とままごとの

へやの境に立ててある衝立も全部、穴のあいている近代的なものでつくってあるので、適当に穴から穴へ必要な道具や花などをかけている。日本間には三畳を六畳敷にしてあって、床の間も床わきもついている。床の間の壁には幼児たちのかいた絵を入れた「かけじ」がかけてあるし、天井下の鴨居との間の壁にも横額がかけてあって、そこにも幼児たちのかいた絵が入れている。またこの日本間には、ビクターのEP板もLP板もかかる電蓄やポータブルや、レコードケースや、お客さまごっこにつかう小さな折りたたみのテーブル五、脚と、ゆうぜん染の座ぶとんが十枚おかれてあり、茶たんすには、お客さま接待用の道具がいろいろはいついて、お人形を抱いておかあさん、おねえさん振りも如才なく、お客さまごっこに余念ない姿にあふれる。

なお下と二階を通じて、一つ一つ趣の変わった美しい笠の電灯が五個さがっている



し、ハトポッポ時計もかけてあるので、かわいい鳩が出て来る時刻には、時計の前に集ってポッポと鳩が出て鳴くのを待って喜んでいる。

この「こどものいえ」では、教師の支配も、大人の気分の圧迫もなく、幼児同志で、また自分で、それぞれ欲求する物や事

にふれて、自分の心を働かせてたのしく暮らしているから、教師は遠くから見まもって、この雰囲気破壊しないように留意しながら、よい相手役をつとめている。この家がこれ程までに幼児たちから歓迎され、喜ばれるとは実に予想以上である。この家へはいるのを待ち遠しがりまたはいったら出たくないとしりでも長くこの家にいたいと希望する。(園児が多いので交代してはいるからである)この家の構造も壁の色も、室内の塗ってあるベンキの色彩も設備してあるものも、ものいわぬ環境が、子どもを呼んでいる。明るくて、静かで、美しい室の中には、欲求を満足させてくれるものが、いろいろあって、しかも束縛なしに、持って遊べるので、活動がつきつきとつづくとともに、よい経験に伴ってよい学習をしていることは、自然の間に生む教育効果と施設・設備という環境について大なる関心をいだいている。

幼児嚙実演回顧記

(前略)

平安短大保一B A子

子どもにお嚙をしているときは、何もかも忘れてしまう。子どもたちは、お嚙をしている私に、一刻のすき(本人傍惑をも与えることを許さないから、忘れなければならなくなるのである)。

近頃の私は、だれと話し合っているよりも、子どもと話し合っているときが一番幸福なのである。(大意抄記「回顧」の題意に適合例)

〔鑿〕すきを充たす一心が、彼我一体に結ぶお嚙の「場」である。

幼稚園の朝の新味と、保母の慰勞に満足する純情交感の場と、倉橋先生の「自由感」がここに躍動している。

「幼稚園真諦」32頁「茶人の悠々たる生活」は、保育者と幼児との語り合う純なるお嚙においてこそ、最も能く発揚された印象を、地上に樂園をもたらせる至宝として鑽り下げて行きたいのである。(三、二、一九、十一時五十分記)

大塚喜一